

社会资本総合整備計画（市街地整備）

令和7年3月31日

計画の名称	道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現（第2期）	重点配分対象の該当	無
計画の期間	平成28年度～令和5年度（8年間）	交付対象	北海道札幌市
計画の目標			

大通駅周辺地区では、大通交流拠点整備事業や路面電車のループ化事業、駅前通の民間ビルの建て替えなどにより、これまで課題となっていた札幌駅周辺地区の一極集中も解消の方向に向かっており、地区の活気も徐々に取り戻しつつある。今後は、北3条広場に代表されるように、地下のみならず、地上部においてもぎわい機能の充実と快適な歩行空間の確保が求められている。

平成24年1月に策定した総合交通計画では、「路面電車の既設線において、バリアフリー化の実施、道路の拡幅に合わせた景観性の向上など、まちづくりと一体となった取り組みを進める」こととしている。今後は、既設線の機能向上等により路面電車利用者の満足度を向上させることで、都心のにぎわい創出や路面電車の利用促進につなげたいと考えている。

また、「札幌市都市再開発方針」(H28.3策定)では、都心地区における目標として、「札幌駅前通、大通、創成川通、北3条通を基軸とする豊かで快適な都心の創造に向か、多様で高次な都市機能が複合した市街地の形成を図る。」ことを目指している。

一方、当該地区は自転車等駐車場が不足していることから、歩道に放置自転車があふれしており、歩行環境上も景観上も大きな問題となっている。

そこで、路上放置自転車の解消に向けた取り組みと併せて、それぞれの事業の相乗効果により、魅力的で快適な都心の実現を図る。

計画の成果目標（定量的指標）
<ul style="list-style-type: none">周辺地区の路上放置自転車数2,621台を111台に減少計画区域内における自転車乗入に対する駐輪場整備率を13.5%から100%に増加路面電車利用者の満足度を45%から65%に増加市街地再開発エリアにおける人口を34人から1,600人に増加

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値	中間目標値	最終目標値	
	(H28)	(R2末)	(R5末)	
周辺地区の路上放置自転車数を測定する。	【台】	2,621	2,109	111
計画区域内における自転車乗入に対する駐輪場整備率を測定する。	【%】	14	18	100
路面電車利用者の満足度についてアンケートを実施する。	【%】	45	-	65
市街地再開発エリアにおける人口を調査する。	【人】	34	-	1,600

全体事業費	合計 (A+B+C)	22,255百万円	A	19,721百万円	B	0百万円	C	2,534百万円	D	百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	11.39%
-------	---------------	-----------	---	-----------	---	------	---	----------	---	-----	-----------------------------	--------

交付対象事業

A 基幹事業				事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)									全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設設計 策定状況	備考
番号	事業種別	地域種別	交付対象					H28	H29	H30	H31	R1	R2	R3	R4	R5				
A10-001	都市再生	一般	札幌市	直接	札幌市	大通駅周辺地区都市再生整備計画事業	27.6ha	札幌市									250			
A13-002	交通	一般	札幌市	直接	札幌市	都市・地域交通戦略推進事業	軌道改良、停車場改良、電力設備、車両基地	札幌市									3,521			
A16-003	住宅	一般	札幌市	間接	組合	北8西1地区市街地再開発事業	住宅、商業等 2.1ha	札幌市									9,127			
A16-004	住宅	一般	札幌市	間接	組合	南2西3南西地区市街地再開発事業	住宅、商業等 0.6ha	札幌市									5,932			
A16-005	住宅	一般	札幌市	直接	札幌市	札幌駅交流拠点地区基本計画等作成等事業	52.6ha	札幌市									26			
A16-006	住宅	一般	札幌市	間接	民間	北3西3南地区優良建築物等整備事業	業務、商業等 0.4ha	札幌市									470	1.43		
A13-007	市街地	一般	札幌市	間接	組合	北4西3地区第一種市街地再開発事業	商業、業務等 1.7ha	札幌市									396	1.19		
合計																	10,721			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

事後評価の実施時期

令和6年度

社会资本総合整備計画の事後評価として札幌市で実施

公表の方法

市ホームページにより公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関する
交付対象事業の効果の発現状況

大通駅周辺地区都市再生整備計画事業において行った南2西3地下自転車駐車場等の整備により、路上放置自転車が減少したこと、市民や観光客、車いす利用者など全ての歩行者が安心して通行できる歩行空間を確保するとともに、無秩序に放置された自転車が無くなることによって都市景観が改善された。
また都市・地域交通戦略推進事業による路面電車軌道の再整備や、効果促進事業によるデザイン性に優れた低床車両の導入等により、利用者の満足度を高めることができた。
市街地再開発事業においては、定量的指標として設定した住民基本台帳に基づく人口増が目標未達となり、定住人口増という観点からは十分な成果を得るに至らなかった。一方で、公開空地が整備されたことにより各種イベントが開催され周辺地域の賑わい創出に貢献することができたほか、耐震性の高い構造の採用や、防災時の一時滞在者スペースの整備等によって防災性が向上している。また北8西1地区における地下鉄駅直結の地下通路の整備や、南2西3南西地区における施設地下フロア店舗と地下街の直結によって、利便性の高い快適な地下歩行空間が創出されるなど豊かで快適な都心の創造に寄与した。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

北2西3地区の優良建築物等整備事業において、駅前通地下歩行空間への広幅員接続や地上部の歩行者空間の拡充、屋内広場などの整備により、賑わいの拡充や質の高い歩行者空間が整備され利便性が向上した。

○特記事項（今後の方針等）

一部の要素事業は、本整備計画の完了に際して新たに立ち上げられた整備計画に移行しており、引き続き魅力的で快適な都市の実現を図るため、また防災性を高め安心・安全な都心空間の形成を図るために事業を推進していく。

○目標値の達成状況

番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
周辺地区の路上放置自転車数2,621台を111台に減少		
1	最終目標値 111台	南2西3地下自転車駐車場の整備等により目標値を達成した。 (本指標に関する要素事業はR1年度より「大通駅周辺地区都市再生整備計画事業」に移行しR6年3月に別途事後評価済のため、その内容を引用している。)
	最終実績値 74台	
計画区域内における自転車乗入に対する駐輪場整備率を13.5%から100%に増加		
2	最終目標値 100%	南2西3地下自転車駐車場の整備等により目標値を達成した。 (本指標に関する要素事業はR1年度より「大通駅周辺地区都市再生整備計画事業」に移行しR6年3月に別途事後評価済のため、その内容を引用している。)
	最終実績値 100%	
路面電車利用者の満足度を45%から65%に増加		
3	最終目標値 65%	順調な事業進捗により、路面電車利用者の満足度の目標値を達成した。
	最終実績値 69%	
市街地再開発エリアにおける人口を34人から1,600人に増加		
4	最終目標値 1,600人	最終実績値の人口500人は、市街地再開発事業を実施した北8条西1丁目、南2条西3丁目の人口を令和7年1月時点の住民基本台帳から抽出した結果であり、目標未達となった。しかし、市街地再開発事業2地区で整備した住居は既に全戸契約済となっており、当該地区の住居需要は高いものであったと推定される。
	最終実績値 500人	目標未達となった要因としては、契約済住戸のうち一部が賃貸となり居住者が住民票を移していない、あるいはまだ入居していないなどの理由が想定され、指標値に差が出る要因になったと考えられる。しかし令和6年4月時点の人口は221人であったが、その後増加し令和7年1月時点では500人となっており、今後も動向について引き続き注視していく。

(参考図面)

計画の名称	道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現（第2期）		
計画の期間	平成28年度～令和5年度（8年間）	交付対象	北海道札幌市

